

2024 年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	地域分析 (Regional Analysis) 393113-14-100					担当教員	瀧波 慶信 (タキナミ ヨシノブ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	3 年次	開講期	後期
科目特性	地域志向科目／知識定着・確認型 A L								

① 授業のねらい・概要
地域社会の研究に必要な地域分析の方法を習得する。ネット上でのデータ探索作業を手始めに、各種統計データやフィールド調査で得られた計測データ、および分析結果を地図化するなどの作業を行う。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
地域社会に貢献する姿勢／専門的知識・技能を活用する能力／情報収集・分析力
③ 授業の進め方・指示事項
基本的に講義形式であるが、多くはパソコンを用いて解析を行う実習的要素を含む。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
地域経済論の並行履修が望ましい。
⑤ テキスト（教科書）
テキストは指定しない。各回、レジュメを配布する。
⑥ 参考図書・指定図書
村山祐司、駒木伸比古（2013）『新版 地域分析』古今書院
⑦ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安
（ i ）地域の課題について考える視点を身に付ける。 （ ii ）地域を知るために地域分析を行うことができる。 （ iii ）統計データ分析や地図化ができる。

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 地域分析の意味	地域の意味・地域の在り方を理解し、分析ができる	資料等を参考に地域の分析ができる	地域分析の必要性を理解できる	地域分析の必要性が理解できない	地域について考えることをしない
(ii) 地域の特色・課題を説明できる	地域の特色についてさまざまな方法を用いて分析できる	地域の特色について資料を参考に説明できる	地域の特色を発見しようとする態度はある	地域の特色を感じることはできる	地域の特色を考えることができない
(iii) さまざまな情報を統計学的手法などにより、数理的に表現・分析できる	さまざまな情報について理解し、地図化などの表現・分析ができる	さまざまな情報について分析できる	さまざまな情報についての理解自体が不十分	さまざまな情報について理解しようという態度は見受けられる	さまざまな情報について全く理解できない

⑨ 学習到達目標（評価項目）	定期試験（レポート含む）	小テスト	課題	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%			40%	10%		100%
(i) 地域の定義	10%			10%	2%		22%
(ii) 地域の課題と行政	20%			10%	4%		34%
(iii) 地域分析結果の数値化	20%			20%	4%		44%
フィードバックの方法	自分の住む地域の時事問題を毎回提示させる。						

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
日頃から身近な社会の出来事に関心を持って生活しよう。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	ガイダンス	授業の概要、進め方	120 分

2	地図を見る	地図処理能力の養成	120 分
3	現代のオンライン地図情報	地図情報の収集を行う	120 分
4	写真・衛星画像のデータベース①	写真・画像の収集を行う	120 分
5	写真・衛星画像のデータベース②	写真・画像の活用を行う	120 分
6	統計データの探索①（収集）	統計データの収集を行う	120 分
7	統計データの探索②（解析）	統計データの解析を行う	120 分
8	発表①（個人 A グループ）	個人発表	120 分
9	発表②（個人 B グループ）	個人発表	120 分
10	空間データ①（収集）	空間データの収集を行う	120 分
11	空間データ②（解析）	空間データの解析を行う	120 分
12	新潟県の地域分析①（国際の視点）	国際レベルで検討	120 分
13	新潟県の地域分析②（国内の視点）	国内レベルで検討	120 分
14	新潟県の地域分析③（市町村の視点）	市町村レベルで検討	120 分
15	まとめ	分析過程と結果を再確認する	120 分

⑫ アクティブラーニングについて
講義の終盤に、検索結果、成果を提出する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性